



2022年度 川崎市サッカー協会 第4種委員会 春季代表者会議

【日時】 2022年3月26日（土） 18:30～20:00

【会場】 川崎フロンターレ事務所 ～ オンライン会議

1. はじめに
2. 2021年度 事業報告（少年／少女）
3. 2022年度 事業計画（少年／少女）
4. 大会運営部からのお願い事項
5. 審判部からの連絡事項
6. 第3種委員会からの報告事項
7. JFAセーフガーディングポリシー（4種委員会としての取り組み）
8. 2022年度 第4種員会の役員体制
9. 川崎市サッカー協会からの連絡事項
10. 質疑応答

2021年度 事業報告



KAWASAKI City
Football Association

◆大会運営部（少年）

◆強化部（少年）

◆大会運営部（少女）

◆強化部（少女）

<資料> [20220326_11_2021年度事業報告](#)

2022年度 事業計画



KAWASAKI City
Football Association

◆大会運営部（少年）

◆技術部（少年）

◆大会運営部（少女）

◆技術部（少女）

<資料>

- ・ [20220326_21_2021年度事業計画](#)
- ・ [20220326_51_2022年度_市TC活動開始](#)
- ・ [20220326_52_2022年度_市TCコンセプト](#)
- ・ [20220326_53_2022年度_市TC年間スケジュール](#)

<資料> 20220326_41_2022年度お願い事項

1. 複数エントリーに際しての留意事項

公式戦を11人制から8人制に移行するにあたり、選手の出場機会を増やすことを主眼として一定の要件を充たす場合に複数（2チーム）エントリーを可能としていますが、その要件の一つに「スタッフ（監督・コーチ・審判員）がそれぞれのチームに違う者が帯同できること」を規定しています。

複数チームで参加する場合、同日に異なる会場での試合が組まれることや、隣接する会場であっても同時間帯の試合となることもあり、また、勝ち進んだ場合には同じクラブのチーム同士で対戦することもあるため、選手だけでなくスタッフも異なる人員を帯同出来ることをエントリーの条件としています。

過去の試合において複数エントリーチームの指導者が双方のチームに帯同している事例の報告を受けていますが、エントリー要件に反する行為となりますので、このような行為が発覚した場合には事後的に処罰の検討をさせていただくこととなりますのでご留意ください。

2. ピッチ外に蹴り出されたボールの扱い

ここ数年の公式戦で、試合中にピッチ外に蹴り出されたボールを拾いに行かない選手、予備の試合球を投入するよう審判に激しくアピールするスタッフを多く見かけるようになりました。

勝負にこだわり試合中に相手ボールを拾いに行くことを良しとしない指導方針もあるかもしれませんが、普段のトレーニングでスタッフがボール拾いをすることで時間を有効活用することに選手が慣れていているという側面もあるかもしれませんが、4種の公式戦では一部の例外を除きマルチボールでの運営は行っていないため、試合時間を浪費しないようピッチ外に蹴り出されたボールはゲームに参加している選手自らが拾いに行くよう指導していただくとともに、予備の試合球を使用する判断は主審にあることをご理解のうえ審判に過度にアピールすることの無いようお願いいたします。

◆2022年度開幕前研修会について

2022年度開幕前研修会を4/10に開催します。

2022年度開幕前研修会開催のご案内

【審判委員会リリース】

https://kawasaki-fa.com/referee/info/20220307_001

◆第3種／第4種の交流事業について

コロナ禍で、以前まで行われていた交流事業が行えなくなっています。

- 状況が落ち着き次第、交流を進めて行ければと思います。
- 各地区担当との連絡や学校顧問とのやり取りなど活発に行えればと思っています。

◆第3種委員会の事業について

コロナ禍で、大会の中止／延期が続いています。

学校組織で行っている活動であり、教育委員会や市／県の方針が優先されます。
以前のような形に戻るまでは時間がかかるが、前向きに実施していきたいと思っています。

- 年間を通した取り組みとしてU13/14リーグの立ち上げを実施。
- 春の大会、1年生大会、クラブと中体連の交流など様々な取り組みを行っています。

◆3種関係で問い合わせがありましたら、**塚越中 時任** まで連絡をお願いします。

セーフガーディング

日本サッカー協会（JFA）は、子どもたちを守るための「JFAセーフガーディングポリシー」を2021年11月18日に策定しました。これは、子どもたちがサッカー、スポーツを安心、安全に楽しむ権利とその環境を守るために、指導者をはじめ、サッカーにかかわる全ての人々が順守する指針であり、サッカーファミリーにとってよりどころとなるものでもあります。

JFAは「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」を理念に掲げ、だれもが、いつでも、どこでも、安全に、安心してスポーツを楽しめる環境を広げるべく、さまざまな活動を行ってきました。

2019年にはユニセフの「子どもの権利とスポーツの原則」に賛同し、「JFAサッカーファミリー安全保護宣言」を発表。懲罰基準の明確化や懲罰の厳罰化、ウェルフェアオフィサーの推進などを通じて、暴力や暴言、ハラスメントのない健全なサッカー環境の整備を進めてきました。しかし、残念ながら、子どもたちからスポーツの楽しさや心身の健やかな成長の機会を奪う事象は依然として後を絶たない状況です。

JFAセーフガーディングポリシーは、JFAサッカーファミリー安全保護宣言をサッカーの日常の場で体現するために整理したもので、今後は下記の通り、具体的な取り組みを推し進め、サッカーファミリーへの意識共有を図っていきます。JFAは次の100年に向けて子どもたちの声を聞き、子どもたちをエンパワーする活動にもより一層の力を注いでいく考えです。そして、いかなる場合でも暴力を容認せず、全てのサッカーファミリーが安心して安全にサッカーを楽しむ権利があることを啓発していきます。

JFAセーフガーディングポリシー

対象

サッカーにおける全てのサッカーファミリー/ステークホルダー

基本原則

子どもたちの安心・安全を守る

- ・子どもたちの喜びを広げ、成長を促す環境をつくる
- ・子どもたちに選択肢を与える
- ・子どもたちの声を聞き、対話する
- ・子どもたちの安全・安心を守る
- ・健康や環境リスクに対処する

ゼロ・トレランス 私たちは許さない

- ・あらゆる暴力・暴言を排除する
- ・あらゆる差別を排除する
- ・あらゆるハラスメントを排除する
- ・あらゆる誹謗中傷を排除する
- ・子ども同士の問題にもアプローチする
- ・サッカー外の問題にも気づく
- ・負の連鎖を断ち切る

そのためにも

- ・適切な人が子どもたちに関わるよう取り組む
- ・子どもたちを守るためにも、誠実に子どもたちに向き合う大人の安心・安全も守る
- ・起こったことへの対処とともに、予防・教育を重視する
- ・現場をオープンに。リスクの芽に気づき、声を掛け合う、伝え合う文化をつくる

今後の取り組み

ウェルフェアオフィサーを都道府県サッカー協会、リーグ・連盟に限らずクラブへと広げ、ネットワークを機能させる

ケース対応の手順チャート

クラブのフィロソフィー、大切にすること、方針の明文化

クラブでのリスペクトワークショップの実施

健全育成クラブ基準の検討と提示

指導者へのセーフガーディングワークショップの実施

リーグ単位でシーズン初めにセーフガーディングワークショップを開催することを推進

 [セーフガーディングポリシー全文はこちら](#)

川崎市サッカー協会にも以下のような苦情メールが数多く寄せられています。

- 市大会の試合中に、指導者が選手の頬を平手打ちしていた（暴行）
- 市大会の試合中に、指導者が選手に行き過ぎた発言をしていた（暴言）
- 練習中あるいは試合中に指導者が罵声を浴びせている
- 差別的な言動で指導を行っている
- オーバーワークとわかっていても無理をさせざるを得ないようなチーム指導を行っている

◆『ウェルフェアオフィサー』の配置について

『ウェルフェアオフィサー』とは

日本サッカー協会では、2015年度から暴力・暴言を用いた指導を「しない、させない、許さない」をキーワードに暴力根絶に向けて取り組んでいます。

サッカーに関わるすべての人が安全にサッカーを楽しむことができる環境を作り出すことを目的に、ウェルフェアオフィサー制度を設けています。

- 川崎市サッカー協会主催大会において、各会場に『ウェルフェアオフィサー』を配置
- 4種登録チームの指導者向けに研修会を実施（2022年度中に3回程度を計画）
※2018年11月 4種登録チームの代表者を対象に研修会を実施済（約50名参加）

◆指導者ライセンス（D級/C級）取得の促進について

- 将来的には、『ベンチ入り指導者はライセンス保有者であること』を目指します。
- 努力目標として、高学年の試合にベンチ入りする指導者はライセンスの取得をお願いします。

◆第三者機関の設置と適切な処分の決定について

- 「暴力」「暴言」「不適切な指導」等が発覚した場合には、川崎市サッカー協会内に第三者機関（諮問委員会）を設置して、当該案件の事実関係を精査して適切な処分を決定します。

2022年度 役員体制



KAWASAKI City
Football Association

2022年3月26日

	委員長	芝原 輝夫 (協会理事)		
	副委員長	鈴木 哲夫	赤羽 正行	
統括	事務局	加藤 渉 (協会副理事長)	芝原 輝夫	赤羽 正行
		鈴木 哲夫	中島 誠二	大野 靖志
		田中 裕一	岩崎 英二	田口 勝
少年	大会運営部	部長：中島 誠二 *		
		田辺 卓司 (川崎区)	向江 剛 (川崎区)	勝又 亮 (川崎区)
		大野 靖志 (幸区) *		
		本木 好幸 (中原区)	高橋 孝 (中原区)	白鳥 恭章 (中原区) *
		沼田 哲男 (中原区)		
		横山 和史 (高津区)	西村 雄一郎 (高津区)	藁谷 学 (高津区) *
		澤田 秀治 (宮前区)	村田 猛 (宮前区)	小平 年春 (宮前区)
		吉岡 強 (多摩区)	海老塚 充 (多摩区)	
		善本 康二 (麻生区)	新井 光男 (麻生区)	渡邊 靖之 (麻生区)
	技術部 (※強化部から改称)	部長：藤原 隆詞 (川崎F)		
		伊藤 学	脇田 健司	渡辺 幸博
		徳永 勇希	加藤 伸	
	審判部	部長：田中 裕一 *	藁谷 学 *	
	広報部	部長：芝原 輝夫 *	大野 靖志 *	
財務部	部長：大野 靖志 *	中島 誠二 *		
渉外部 (県協会)	部長：白鳥 恭章 *	藁谷 学 *		
少女	総括	部会長：鈴木 哲夫 *		
	強化/審判	板垣 望		
	財務/庶務	木間塚 健	河野 理恵子	

* : 兼務

2022年度 新任

◆2021年度 定期総会について

2022年5月28日（土） 11:00-12:00 オンライン会議

◆寄付金の募集について

認定NPO法人を維持するために、川崎市サッカー協会への寄付をお願いします。

市による認定団体への毎年の審査には、以下の3つの重要ポイントが挙げられます。

1. 正確性確認

団体の運営方針の提示方法やこのフォローの仕方に関して規定を定め、この内容が正しく保持継続されているかを確認する。

2. 認知性、信頼性確認

提示された運営方針や日頃の活動に対し、賛同の形として他団体、個人から5年の期間を押し並べて、年平均100件以上の寄付を受けているかを確認する。

3. 健全性確認

会計処理、他団体との関連を含むコンプライアンスなどの健全性を確認する。

質疑応答



KAWASAKI City
Football Association